

平成 2 8 年 6 月 8 日

清水町議会議長 加 来 良 明 様

清水町議会総務文教常任委員会
委員長 高 橋 政 悦

所 管 事 務 調 査 に つ い て

常任委員会活動として行う所管事務調査について、このたび調査を終えたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

記

1. 調査事項 学校現場における教育活動の状況について
2. 調査期日 平成 2 8 年 2 月 1 0 日、4 月 2 6 日、5 月 2 日、
5 月 1 0 日～1 2 日、5 月 1 9 日
3. 調 査 先 町内、秋田県五城目町、神奈川県川崎市（特定非
営利活動法人キーパーソン 21）、千葉県南房総市
4. 調査の結果

現在の教育現場における子どもたちは、常に教師が期待する正解を求められるので、思考が画一化し、自分の考えを自分の言葉で表現したり、動作することが十分にできないでいる。

人は 本来、「自分はこう考える」という意志を持っており、社会生活では人とのぶつかり合いがあっても自分の表現力を使って打開していく力を持っている。

学校は言葉の共有化を図りながら情報を受け取り、表現する活動の場である。また、全員が同じ教材を通して、共通課題の下に学習を展開していくために、個人で創造するという場面に制約を受けているのが現状である。

しかしながら、教育活動の中で、豊かな人間性や社会性、自覚を育成することのみならず、当然学力向上の成果も求められる。

学習指導要領には、各学校が創意工夫を生かし、特色ある教育、特色ある学校づくりを進めることと示されていることから、本町での将来を担う子どもたちへの教育支援、保護者への子育て支援等に資するため、町内各学校の取り組み、道外先進地調査（事前研修・事後研修を含む）を行った。

【清水小・中学校、御影小・中学校における教育活動について】

幼保小での連携はこれまで本町において既に取り組んでいたが、一昨年度から小・中学校において連携を強化している状況があり、スムーズに現場サイドでも定着してきていることは、中一ギャップ等の懸念が少ないと考える。また、教室全体を使った明るい掲示は、その後の視察先学校と共通する部分が多く見受けられた。ただし、掲示がほとんど見受けられない教室も一部散見されたので、学校内で調整をする必要があると思われる。

また、昨年より取り組んでいるQ Uテストの採用が御影小学校で行われていないことは、町内に2校しかない小学校において差が生じることになり、同じく中学校2校で採用している中において児童・生徒の引き継ぎにも影響するため、その必要性を十分理解した中で進めていただきたい。

今後は学校間において積極的な交流を持ち、独自性・地域性を大切にしながらも、同じ町内にある小学校・中学校という意識を持って協力して運営されることを期待する。

【学力向上の取り組みについて（秋田県五城目町）】

全国学力・学習状況調査結果から、小学校6年生、中学校3年生

ともに全国平均を大きく上回り、良好な結果を得ている秋田県の学力向上関連事業について、五城目町の視察調査を行った。

秋田県では全国学力・学習状況調査ばかりではなく、市町村で同様の調査を行って課題を見つけ、それに基づく授業改善を積極的に行い、結果の活用が質的向上につながっている。

また、地域の教育支援サポーターが積極的に活動し、きめ細やかな指導が可能となっている。

さらに、学習の仕方と理解を深めることで家庭での学習習慣化が進み、家庭教育力の向上につながっている。

安心して学習できる環境づくり、思考を促し深める授業づくり、自発的学習を生み出す指導、学校・家庭・地域の強い連携を重点に秋田型スタイルが確立されている。

しかしながら、小・中学校では成績優秀とされているにもかかわらず、高校以降においては、その後の進学状況に結びついているとは特段言えず、課題とされている。

結果、現在行われている学力調査は、全国的に公表される成果と連動しているとはいい難いものの、その取り組み方によっては大きな可能性を持つ。

【キャリア教育等について（神奈川県川崎市 特定非営利活動法人 キーパーソン 21）】

子どもたち一人ひとりが個性や多様性を認め合い、自信をもって自分らしく生きる力を持てるよう、「自分を知る」「社会を知る」「自立する」力を育むための教育事業について親、教師だけではなく、社会人、大学生などさまざまな大人たちが子どもたちに関わり、支えることのできる仕組みづくりについて、特定非営利活動法人キーパーソン 21 の視察調査を行った。

私たちが大切にすべきこと。一人ひとりが輝くこと。自分で選んだ道を歩むと、その道が陰しくとも、たとえささやかであっても充足感が得られる。自分で決めたことを行動に移したときには一生懸命になって頑張るエネルギーを持つことができる。そんな感動を持

って生きるための教育プログラムは現在の学校教育では難しい。

キーパーソン 21 では、自分自身を肯定的に捉える経験が少ない社会・教育・家庭環境の中で育つ子どもたちに対し、自分の本心、気持ち素直に向いて、わくわくして動き出さずにはいられない原動力のようなものを探し出す自分発見プログラム、社会を知るためのワークショッププログラム、自立支援のためのアクションプログラムを開発し、実践している。

結果、自分で考え、選択し、行動する力が生まれ、社会の中で自分を生かす方策を発見する。

また、教育環境に恵まれない子どもたちのあきらめ感を払拭し、自分のやりたいことを考える力、それを実現したいと思う意欲や目的意識を持たせる教育の必要性から、学習支援・居場所づくり事業をも展開する。これは親でもなく先生でもなく「地域の大人」がサポーターとして学力の底上げだけではなく、子どもたちの未来づくりを支援している。

これらの活動は保護者のニーズに応えるばかりではなく、学校教育にある限界を超える結果を得ることができると思われる。

【幼保小中一貫教育の推進について（千葉県 南房総市）】

教育委員会で取り組む「地域に誇りと強い思いを持ち、自己の可能性を伸ばす」0歳からの15年教育について、南房総市の視察調査を行った。

南房総市の施策体系は教育内容の充実と子育て支援の充実の2本立てで行われており、多くある行政と変わらないところだが、取り組み方の細部にわたり特色が見られる。

個々の問題点を早い段階で把握し、情報の共有化により素早い対応が可能となるよう幼保一体化の推進を積極的に行い、在宅乳幼児にもそのスペースを開放するなど学びの土台づくりへの支援を怠らない。

教育の質の向上についても、全国学力・学習状況調査の結果に左右されることなく、その本質を精査し、全国平均を上回ることに安

堵感を求めることなく、どこへ行っても通用する学力を目指して取り組んでいる。

基礎学力はもちろんのこと、結果として点数のとれる学力を身につけなければ中央では通用しないとの考えから、民間全国レベルの学力テストを利用し、児童生徒の学習状況を把握・分析して対応を行っている。

また、学校外教育サービス事業として、民間塾講師による土曜スクール、放課後スクールを開講し、子どもの学習環境を確保し、学力、学習意欲の向上並びに個性及び才能の伸長を図っている。

この事業は、学校スペースの利用許可ばかりではなく、利用者負担軽減措置として行政が助成も行っている。

【総括】

秋田県、神奈川県、千葉県と視察し、どの場面においても感じたところは地域の協力と力強いリーダーシップの2点に尽きる。

本町が今行うべきことは、未来の清水町に対する投資である。

これは金銭的な投資ではなく熱意にほかならない。「人」としての苦労が伴い、急激な変化は現場に混乱を招き、力強いリーダーシップと組織マネジメント力が成否を分ける。

清水町が取り組むべき問題のひとつとして全町民が志を持って関わっていく必要がある。